【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている Ｂ：おおむね達成できている Ｃ：やや不十分である Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校教育目標「西中一心～夢の根っこを育てる～」のもと、重点目標（①志を高める教育の推進　②確かな学力を育む教育の推進　③豊かな心・健やかな体を育む教育の推進）の達成に向けて職員がチームとなって教育活動を行い、おおむね成果を上げることができた。 重点目標①：学校行事や体験学習等において、自らの夢や目標について考えさせることができた。今後は、授業・行事等のあらゆる教育活動において、生徒が自己決定し、能動的に取り組むよう仕組んでいくことで、自己肯定感や自己有用感を育て、自らの可能性を実感する機会を与えることを目指す。 重点目標②：「めあて」「ながれ」の提示や、単元末の「ふりかえり」場面の設定について共通実践を行い、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいくことができたと実感している生徒が増えた。今後も教師の指導法改善を進めながら、生徒の主体的・共働的学びを実現する授業実践を進める。 重点目標③：給食委員会が中心となって給食の残菜を減らす取り組みを行ったが、改善が難しかった。今後も、健康につながる食習慣について考え、実践させる活動を模索していくとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底を目指す。
2　学校教育目標	「なりたい自分像」をもち、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す
3　本年度の重点目標	学校教育目標の達成を実現するために次の態度を身に付けさせることを目指す ○見通しをもって計画的に行動する　○感情をコントロールする　○他者の立場で物事を考える　○目標の合意形成を図り、他者と協働する　○意見の対立や理解の相違を解決する　○場面に応じた言葉や技能を使いこなす　○信頼できる知識や情報を収集し、有効に活用する

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自ら考え、決定し、表現する力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだと回答した職員の割合90％以上 ○学習の見通しと目的意識をもって学習に取り組み、知識や技能を身に付けることができたと回答した生徒75％以上	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を校内研究の取組の1つとして位置付け、研修会や相互参観等を通して意識を高める。 ・単元を通して身に付けるべき資質・能力を生徒と共有し、生徒が学習内容や自分の理解度などを自覚しながら、主体的に学ぶことができる授業の在り方を探る。	A	・夏季休業中の教科部会において、教科ごとに講師を招いて指導法改善に係る学習会を行った。 ・全国学力・学習状況調査に係る研修会を開催し、講師の指導のもと、全職員で分析を行って現状を把握し、学力の向上に向けて共通実践していく内容を具体的に決定した。 ・12月のアンケートで「『主体的・対話的で深い学び』の実現を意識して授業改善に取り組んでいる」と回答した職員95％	A	・学校評価アンケートで、「授業では、見通しと目的をもって学習に取り組み、授業後に振り返ったことを次の学習に生かそうとした」と肯定的な回答をした生徒92．6％ ・「本やタブレット端末を使ったり、友達と話し合いをしたりしながら、自分でよく考え、学習課題の解決に取り組んだ」と肯定的な回答をした生徒94．4％	A	・適切に対応できている。今後も教材研究を深めて頑張ってほしい。 ・グループの意見をまとめ、分かりやすく説明できる「話し方」「発表力」を身に付ければ自信になると思う。 ・生徒が学習意欲をもって、楽しく授業に取り組めるように、自分にしかできない魅力ある「教え方」を追求し、実践してもらいたい。 ・授業参観の際、生徒が能動的に授業を受けている姿が見られた。	学力向上 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・道徳教育や体験活動、人権・同和教育を核とした学校教育全体での心の教育の充実に取り組む。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。	A	・全校一斉に人権に係る学習の場を設定し、動画の視聴や道徳の授業を通して、様々な視点から人権について考えられるようにした。7月には、人権問題を自分事として捉え、考えることができるよう、人権作文と思いやり標語に取り組ませた。 ・文化発表会の前後に、互いのよさを発見したり、伝えたりすることができるような構成的エンカウンターを行った。 ・「生徒が自己を見つめ、心豊かに成長することを目指して、体験活動や奉仕活動を設定した」と回答した職員の割合90％	A	・LGBTに関する理解を深め、多様性を尊重する風土づくりを目指して、6月、7月に職員研修会や全校生徒対象の学習会を設定した。 ・生徒会が校内外美化活動を実施した際、170名を超えるボランティアが集まり、ゴミ拾いや花植えなどに意欲的に取り組む姿が見られた。 ・学校評価アンケートで、「差別やいじめは許さないという意識をもち、お互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって行動している。」と肯定的な回答をした生徒の割合98．1％	A	・アンケートの結果から、意識の高まりが分かった。ボランティアの数が多い。 ・適切に対応できている。いじめの実態を開示し、原因と解決策について、生徒それぞれの立場で共有することが重要であると思う。全員仲間なのだから。不登校についても同様だと思う。 ・教科の学習だけでなく、体験を通した学習にも力を入れることができていた。	人権・同和教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 定期的な生活アンケートを実施する。	●アンケートにおいて、学校生活を楽しく感じることができると回答した生徒が90％以上 ●人の話をよく聴き、相手の立場に立って考えようとすることができると回答した生徒が80％以上	・いじめの未然防止に重点を置き、早期発見・早期対応・再発防止を柱として、組織的な対応を行う。生徒指導体制や教育相談体制の整備の整備を行い、家庭や関係機関との連携を重視して、生徒一人一人に寄り添った支援の充実に取り組む。	A	・月に一回、生活アンケートを実施し、トラブル等の早期発見に努めた。 ・5～6月、及び10月に教育相談週間を設け、生徒が個別に教師と話をすることができる環境を作った。 ・「いじめの未然防止や早期発見、また、配慮を要する生徒への対応等の充実に努めた」と回答した職員95％	A	・学校生活アンケートや教育相談の実施を通して、生徒のSOSトラブルの早期発見、学年を超えた情報共有、チームでの対応を行うことができた。 ・学校評価アンケートで、「先生たちは、あなたの悩みや相談事に耳を傾け、対応してくれていると思う。」と肯定的な回答をした生徒90．4％	A	・継続して、アンテナを高くする必要がある。 ・生徒と先生の関係が良好に思える。 ・適切に対応できている。先生と生徒・保護者の信頼関係が全てを解決してくれると思う。先生の熱意・誠意は生徒・保護者に通じると思う。 ・教師が、チームで生徒たちに真摯に向き合っている成果が出ていると思う。	生徒指導 教育相談
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・キャリア・パスポート等を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	A	・「授業や学校行事、キャリア教育等を通して、夢や目標について考えさせることができた」と回答した職員90％	A	・学校評価アンケートで、「行事や学年・学級活動、生徒会活動等において、目標をもち、自分で考え、他と協力しながらよりよい行動をとろうとした。」と肯定的な回答をした生徒93．8％ ・「自らの夢や目標について考え、それらの実現に向けて努力しようという気持ちをもっている。」と肯定的な回答をした生徒92．3％	A	・適切に対応できている。「職業人に学ぶ」講座は素晴らしい取組だった。講師の選任は、運営協議委員の意見も参考にしてほしい。 ・問題を抱えていた生徒が、よい方向に成長した姿を見て嬉しく思った。自己肯定感をもつことができたことが、これにつながったと思う。 ・他の項目を含めた全ての成果が、卒業式に出ていたと思う。卒業証書をもらう際の節度ある態度、卒業生による合唱の力強さに感動した。	研究主任
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80％以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒90％以上 ●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80％以上	・運動部活動の活動時間（平日2時間、休日3時間程度）を確保できるようにする。保健や体育の学習を通して、運動を続ける効果について学習させる。 ・安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通した食育に取り組む。「日刊給食たより」を用いて昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。 ・講師を招聘し、実情に合った交通安全教室を実施する。また、生徒会と連携し、自転車の乗り方や交通マナーの確認、定期自転車点検を行う。 ・保健体育の学習の学び方を工夫し、実生活に活かすことができるようにする。	B	・「授業を通して、運動やスポーツの楽しさや大切さを実感させ、授業以外でも体を動かすことを推進した」と回答した職員60％ ・食に対する意識を高めるために、生徒会活動の一環として、給食時に食に係る放送をさせた。 ・「基本的生活習慣を身に付けることの大切さや食の大切さについて指導を行った」と回答した職員100％ ・講師を招聘し、実情に合った交通安全教室を実施した。また、生徒会と連携し、自転車の乗り方指導や交通マナーの確認、定期自転車点検を行った。指導事案が発生した場合は、即日個別及び全校生徒に対して粘り強く指導を行った。 ・「授業を通して、健康の大切さを理解させ、保健で学習したことを自分の生活に活かすことができるよう指導した」と回答した職員65％	A	・「授業以外で、遊びや筋トレ、散歩などの運動やスポーツを、1日1時間程度（1週間で7時間程度）行っている。」について、肯定的な回答をした生徒76．7％ ・「部活動や社会体育・文化活動等に積極的に取り組むことができている。」について、肯定的な回答をした生徒94．6％ ・「食事の大切さを理解し、健康を保つためにバランスのとれた食事をしようと意識している。」について肯定的な回答をした生徒99．4％ ・「事故に遭わないよう、交通ルールやマナーを守っている。」について、肯定的な回答をした生徒98．5％ ・「健康の大切さを理解し、保健で学習したことを自分の生活に活かして、健康的な生活を送ることができた。」について、肯定的な回答をした生徒93．6％	A	・アンケートの結果が大変良好である。新聞等で、生徒の活躍をよく目にする。部活動が盛んと感じる。 ・適切に対応できている。部活動などの習い事は、体育系も文化系も、自分を助ける特技となるので、今後特技を生かして地域活動等に参加することを期待したい。吹奏楽部の鳥栖吹奏楽団との合同演奏は、生徒の大きな自信になったと思う。 ・生徒の心身の健康管理や自転車事故・SNSトラブルの防止のために、継続した記憶に残る教育が必要だと思う。 ・卒業して社会に出る前に、ぜひ「自分を守る」「夢を実現する」ために、必要な健康の知識や生活習慣を身に付けて欲しいと思う。特に、性に関する正確な知識を伝えたい。	保健体育 食育 安全教育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的な業務遂行に努めるようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組む。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。	B	・定時退勤日にはカードを提示し、施錠時間を事前にアナウンスして、計画的に業務を進めるよう促した。 ・「働き方改革を意識して、業務の改善や勤務時間の適正化を意識した」と回答した職員65％	A	・職員の配置変更等による校務分掌の見直しを適宜行い、業務の平均化を図った。教職員の計画的・組織的な業務遂行に努めようとする意識が高まった。 ・教職員一人につき1ヶ月あたりの在校等時間を前年比4時間1分短縮することができた。教職員全体の合計では、10ヶ月で1810時間の時間短縮（前年度比）がなされた。	A	・適切に対応できている。家族サービス、プライベート時間を大切にしてもらいたいと思う。 ・学校運営協議委員に任せられることは、遠慮なく申し出てもらいたい。 ・働き方改革の意識は高まってきていると思う。 ・学校現場だけで解決できる問題ではないと感じる。 ・教職員の労働条件の改善は、自助努力では難しいことも多いと思う。国や県、市にもっと国民が働きかけていかないといけないと思う。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと関係職員を中心として、特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援学級の担任同士で、スキルアップのための研修を行う。	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・特別支援学級の担任を中心に、支援を必要とする生徒が社会的・自立的・職業的な自立に向け、自らの生き方に付いて考え、希望する進路を実現できるような進路指導及びキャリア教育の充実に取り組む。	A	・定期委員会や職員連絡会を通して、全職員が特別な支援を要する生徒の様子を短いスパンで把握し、互いに支援方法を相談し合える環境を作った。 ・SCやSSWと連携を図り、生徒だけでなく、担当職員、保護者の支援を行った。 ・夏季休業中に、講師を招いて全職員対象の研修会を行った。 ・「連絡会での情報共有や他の職員との情報交換を通して個別の指導・支援に努めた」と回答した職員90％	A	・特別支援教育コーディネーターが中心となって、特別支援委員会やスキルアップ研修会を企画・運営し、特別支援学級の担任だけでなく、全職員を対象に、個別支援教育の強化につながる情報共有や研修実施を行うことができた。 ・「学校は、子どもたちの理解に努め、指導・支援の充実を図っている。」について、肯定的な回答をした保護者88．9％	A	・適切に対応できている。子どもの成長は学校教育に委ねられていると思うが、子どもと接する場合の考慮事項等を、学校協議委員も共有したい。 ・保護者の意識が高まってきていると思う。 ・以前に比べ、発達障害等への理解が深まって、対応も手厚くなってきていると感じる。しかし、学校の許容量を超えているのではと危惧している。	特別支援

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80％以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80％以上	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年たより等で保護者や地域に知らせる。 ・保護者・地域に対して教科「日本語」の授業を公開する。 ・学校全体で授業に関わる体制を構築し、魅力的な授業づくりを行う。	B	・1学期の授業参観時に、2年生が「日本語」の授業を公開した。 ・2学期の入学説明会時に、1年生が小学6年生、及び保護者、担任に授業を公開した。 ・文化発表会時に、「日本語」の授業における作成物を展示した。また、学校だよりや学級通信で、「日本語」の授業の様子を紹介した。	A	・外部講師を招いて、1年生では「礼法講話」、2年生では「着付体験」を行い、子どもたちの日本文化に対する興味関心や学びを深めることができた。 ・教科「日本語」に関わる情報は、学級通信等で写真を載せて公開したクラスもあるが、80％には到達できなかった。しかし、学校だよりや小中一貫だよりにも学習の様子を掲載し、保護者全体や地域に広く紹介するようにした。	A	・適切に対応できている。日本の歴史と文化、国際情勢、政治、経済、科学、道徳等、幅広く学習し、世界の中の日本ンを知ることは必要だと思う。 ・いろいろなことに思い切って挑戦してほしい。 ・この分野こそ、地域の資源が活用されるといいと思う。	教科日本語 小中一貫教育

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標「『なりたい自分像』をもち、主体的に考え行動することができる生徒の育成を目指す」を達成するために、育てたい生徒の姿を具体的に示して共有したことで、生徒が考え、判断し、計画・実行する機会をつくろうという風土の醸成がなされた。 ・学校行事や学級・学年の活動、また生徒会活動において、生徒がトライ・アンド・エラーを繰り返しながら何かを成し遂げる場面が増えたことは、生徒の自己肯定感を高め、学校生活への意欲の向上や学校の活性化につながった。 ・「学力の向上」について、何をもって学力とするのかを職員で共有し、日々の生徒の学習・生活状況の見取りや、全国・県の学習状況調査の結果を踏まえながら、継続して全職員が指導法改善に取り組んでいく必要がある。